

## 1 理念・目的

### (1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

#### 現状説明

教育開発センターは、ファカルティ・ディベロップメント活動の啓発及び支援並びに全学共通の教務に関する事項の連絡及び調整を行うものとし、東京理科大学及び東京理科大学大学院における全学的な教育施策を企画するとともに、教育活動の継続的な改善の推進及び支援を行うことにより、本学及び本学大学院の教育の充実及び高度化に資することを目的としている。

#### 点検・評価

全学的視点に立った教育開発センターの目的は適切に設定されており、大学設置基準が定める、教育内容等の改善のための組織的な研修等に係わる本学の取組みの推進の目的に適切に対応している。さらに、本学の目指す学部学科が中心となって自発的に進めるボトムアップ型のファカルティ・ディベロップメント活動を推進し支援する活動を行っている。

#### 将来に向けた発展方策

なし

#### 根拠資料

東京理科大学学則

東京理科大学教育開発センター規程

### (2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

#### 現状説明

学則及び教育開発センター規程は教職員に共有され、周知されている。また、教育開発センターHPを通じて、社会に対し公表している。

#### 点検・評価

教育開発センターの目的は、学則及び教育開発センター規程に整備され教職員に周知されており、さらにセンターを構成する委員が各学部の補職である幹事からなることから実質的なセンターの趣旨、目的について各部局で十分に共有されている。また、FD通信の発行によりその活動内容が教職員に広く周知されている。

また、社会に対しては、教育開発センターのホームページを通じて広く公表されている。

#### 将来に向けた発展方策

教育情報の公表として、継続して、ホームページの内容の整備を図る。

#### 根拠資料

東京理科大学学則

東京理科大学教育開発センター規程

東京理科大学教育開発センターHP「センター概要」

東京理科大学教育開発センターFD通信

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

#### 現状説明

教育開発センターは年度毎、自らその事業計画を点検及び立案し、その理念、目的の検証を図っている。

#### 点検・評価

教育開発センター委員会で、前年度の活動結果の点検に基づき当年度の事業計画（到達目標）を審議しており、定期的に本センターの目的である全学共通の教務事項の連絡、調整の機能や、部局ごとの教育活動の改善への支援機能の効果について検証している。

#### 将来に向けた発展方策

なし

#### 根拠資料

2011年度 教育開発センター事業計画（予算申請）資料

## 2 教育研究組織

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

### 現状説明

それぞれ学科におけるファカルティ・ディベロップメント活動の推進役として FD 幹事が置かれ、各学部の FD 幹事の長は教育開発センター委員会委員となり教育開発センター委員会学部教育分科会において活動を行っている。そこでは、「FD 推進小委員会」、「FD 啓発・広報小委員会」、「アドミッション小委員会」、「学習・教育支援小委員会」、の四つの小委員会に分かれ、初年次教育の充実、入学後の学力追跡調査、GPA 制度の検討、授業改善アンケートの実施・検討等の教育活動で改善すべき問題点や課題を整理検討している。

また、大学院については、各研究科幹事又は専攻幹事の長が教育開発センター委員会委員となり、教育開発センター委員会の大学院教育分科会において大学院教育の実質化、国際的通用性、信頼性等の諸課題について点検を実施し、その改善のための取組みについて検討を行っている。

このように、ボトムアップ型のファカルティ・ディベロップメントを実現するための全学横断的な組織としても、理念、目的に照らし適切である。

### 点検・評価

教育開発センターの使命の実現のために、センターの委員は各部局の FD 幹事等により構成しており、責任ある実質的な FD 活動の促進のために適切である。

センターは各部局と部局長会議を通じて組織的に連携しており、独自に事業の予算を持ち定常的な活動を行っている。

また、教育開発センターの事業の効率的な実施のために、事業活動を小委員会に分け、具体的な活動を推進していることは効果的であり適切である。

さらに、ウェブサイトを活用した全学的なファカルティ・ディベロップメント情報の共有化を目指した環境整備が図られている。

### 将来に向けた発展方策

なし

### 根拠資料

東京理科大学教育開発センターHP「事業内容」

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

### 現状説明

教育開発センターは、学部教育分科会及び大学院教育分科会で、事業毎に（事業の別に

より1年～3年の間のうちに) その実施結果について点検し、事業の継続、廃止、内容の見直し等の検討を行い、小委員会等の組織構成の見直しを行っている。

#### 点検・評価

教育開発センター委員会で、前年度の活動結果の点検に基づき当年度の事業計画（到達目標）を審議しており、定期的に組織編成の適切性について検証している。

#### 将来に向けた発展方策

なし

#### 根拠資料

2011年度 教育開発センター事業計画（予算申請）資料  
東京理科大学教育開発センターHP「事業内容」

### 3 教員・教員組織

#### (4) 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

##### 現状説明

毎年、教員に対し各種のセミナー、ガイダンスを実施し、教員の資質向上のための取り組みを実施している。

##### 点検・評価

新規採用教員には、2011年4月1日に新任教員ガイダンスを実施し、また、大学構成員（教員（専任、非常勤）、職員）を対象に、内外の大学教育の直近の課題に呼応したFDセミナー（2011年7月13日開催）を実施し、資質の向上のための方策を講じている。

##### 将来に向けた発展方策

なし

##### 根拠資料

東京理科大学教育開発センターFD通信  
東京理科大学教育開発センターHP

#### 4 教育内容・方法・成果

##### 【教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針】

##### (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか

###### 現状説明

学部全体及び大学院全体の学位授与の方針を定め明示しており、さらに、学部、学科、研究科、専攻ごとの目的に基づきそれぞれの「ディプロマ・ポリシー」を定め、明示している。

###### 点検・評価

なし

###### 将来に向けた発展方策

なし

###### 根拠資料

東京理科大学HP

##### (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

###### 現状説明

学部全体及び大学院全体の学位授与の方針を定め明示しており、さらに、学部、学科、研究科、専攻ごとの目的に基づきそれぞれの「カリキュラム・ポリシー」を定め、明示している。

###### 点検・評価

なし

###### 将来に向けた発展方策

なし

###### 根拠資料

東京理科大学HP

##### (3) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員）に周知され、社会に公表されているか。

###### 現状説明

大学の教育研究上の目的、学部全体及び大学院全体の「ディプロマ・ポリシー」及び「カ

リキュラム・ポリシー」を定め明示しており、さらに、それぞれ学部、学科、研究科、専攻ごとの目的、「ディプロマ・ポリシー」及び「カリキュラム・ポリシー」を定めHPによって大学構成員に周知し、社会に公表している。

**点検・評価**

なし

**将来に向けた発展方策**

なし

**根拠資料**

東京理科大学HP

(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか

**現状説明**

大学の定める目的、ポリシーに基づき、各部局でその目的やポリシーの見直しをしている。教育開発センターでは、ポリシーの検討に関する情報提供を全学横断的に行っている。

**点検・評価**

平成 23 年度には部局長会議において、特に大学院の学位授与の方針をはじめとする見直しについて審議し、教育開発センター委員会大学院分科会においてもその検証を図った。

**将来に向けた発展方策**

なし

**根拠資料**

部局長会議（平成 23 年 10 月 13 日 資料 4-1、4-2）  
教育開発センター委員会大学院分科会資料

【教育課程・教育内容】

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

現状説明

カリキュラム・ポリシーに基づき必要な授業科目を設置している。必修、選択必修、選択等の授業科目を学年ごと、体系的に置いている。

点検・評価

なし

将来に向けた発展方策

なし

根拠資料

なし

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか

現状説明

教育課程に相応しい講義、演習、実験、実習等の授業を開講している。また、シラバスでは、カリキュラム・ポリシーに基づく授業科目の目標を、学習者を主体とする記述で作成するようになってきており、学部については学士課程に相応しい教育内容を、大学院については高度な専門分野の教育内容を、専門職大学院については理論と実務との架け橋を図る教育内容を提供している。

点検・評価

なし

将来に向けた発展方策

なし

根拠資料

なし



## 【教育方法】

### (1) 教育方法および学習指導は適切か。

#### 現状説明

教育方法については、準備学習や復習を含めてシラバスを作成することとしており、学部・学科では、履修上限単位数が適切に設けられるなど、単位制度の実質化が図られている。

L e t u s（教育支援システム）による、授業に関連した教材（資料）や課題の提出等の諸機能を活用した教育も実施している。

学修の指導については、学修簿、履修の手引があり、ガイダンスも実施している。学科には教務幹事がおり、学生の履修指導から教育指導まで適切に実施している。

#### 点検・評価

教育方法および学修指導については、各学科において、それぞれの学科の教育目標に基づくカリキュラム編成のもと、教育の質保証に向けた履修上限単位数の設定などの取り組みが行われている。教育開発センターでは、教育の質保証に関する情報提供を全学横断的に行っている。

#### 将来に向けた発展方策

なし

#### 根拠資料

東京理科大学教育開発センターFD通信

東京理科大学教育開発センターHP

### (2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

#### 現状説明

教育開発センターが作成している「シラバス作成要領」が全学のシラバス作成指針となっている。シラバスは授業期間より前に学生に公開しており、あらかじめ明示したシラバスに沿った内容で授業を実施している。

#### 点検・評価

シラバスについては、各学科の教育目標に基づくカリキュラム編成のもと、「シラバス作成要領」に基づき、各授業担当教員が作成している。教育開発センターでは、教育の質保証に向けたシラバスのあり方に関する情報提供を全学横断的に行っている。

将来に向けた発展方策

なし

根拠資料

なし

(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

現状説明

成績評価方法はあらかじめシラバスで示し、成績評価を厳格に実施しており、単位認定は適切に行われている。

点検・評価

各学科において、それぞれの学科の教育目標に基づくカリキュラム編成のもと、教育の質保証に向けて成績評価および単位認定の厳格な実施に努めており、教育開発センターでは、教育の質保証に関する情報提供を全学横断的に行っている。

将来に向けた発展方策

なし

根拠資料

東京理科大学教育開発センターFD通信

東京理科大学教育開発センターHP

(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結び付けているか。

現状説明

新入生アセスメントテスト、授業アンケートの結果、G P分布等を用いるなど、改善に供している。

点検・評価

なし

将来に向けた発展方策

なし

**根拠資料**

東京理科大学教育開発センターFD通信  
東京理科大学教育開発センターHP

**【成果】**

(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

**現状説明**

なし

**点検・評価**

なし

**将来に向けた発展方策**

なし

**根拠資料**

なし

(2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

**現状説明**

ディプロマ・ポリシーに基づき、各部局において適切に実施している。

大学院における修士および博士の学位の授与については、本学学位規則において授与の要件及び審査の方法を定めており、各研究科委員会において、学位規則の定めに従って学位論文の審査及び最終試験を実施している。

また、学部における学士の学位については、本学学則において定める学修成果の評価を受け、所定の卒業要件を満たした学生に対し、各学部において適切に授与している。

**点検・評価**

なし

**将来に向けた発展方策**

なし

**根拠資料**

東京理科大学学則  
東京理科大学大学院学則

東京理科大学専門職大学院学則

東京理科大学学位規則

## 6 学生支援

(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

### 現状説明

教育開発センターの発足当初から、学習・教育支援小委員会において、多様な学習レベルの学生の教育を念頭において、新入生を対象とした初年次教育、学力不足の学生を対象にした補習授業などの補完教育の充実を課題として捉え、全学的に補完教育を整備し、支援する方針を定めている。

### 点検・評価

学習・教育支援小委員会を中心に、今後、入学前支援講座の効果について検証していく予定。

### 将来に向けた発展方策

なし

### 根拠資料

東京理科大学教育開発センターFD通信  
東京理科大学教育開発センターHP

(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

### 現状説明

各部局では、学科ガイダンス等を実施している。多くの専任の教員は、研究指導のため常に研究室に在室しており、学生が質問や相談のため連絡を取ることが容易である。

また、Letus（教育支援システム）による、授業に関連した教材（資料）や課題の提出等の活用など、双方向のコミュニケーションが行われている。教育開発センターは、広く初年次学生に向けた学習相談室を設けている。他に、特に留学生向けにチューター制度が設けられている。

### 点検・評価

学習相談室は、学部、大学院学生が担う学習相談員（ES）が新入学生への学習相談に適切な役割を担い、教育開発センター委員がキャンパスごとに責任ある運営体制をとっている。しかし、相談者の利用率に応じた効率のよい実施方法を検討する必要がある。

### 将来に向けた発展方策

利用実績を分析し、2012年度の学習相談室の運営を教育開発センター学部教育分科会で

見直すこととする。

根拠資料

なし

## 7 教育研究等環境

### (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

#### 現状説明

入学後、卒業までの成績の分析に基づき、初年次学生への学習環境の整備を重点に置く方針を定めた。

初年次学生への学習支援環境の整備を進め「学習相談室」を設置し、学生の主体的学習を支援している。

#### 点検・評価

年度ごとに、教育開発センターは事業計画の検討を行っており、学生の主体的学習を支援する活動方針を適切に定めている。

#### 将来に向けた発展方策

なし

#### 根拠資料

東京理科大学教育開発センターFD通信  
教育開発センター学習相談室実施要項